

『斑点米カメムシ類 多い』

本年は県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の発生量が「平年並」と発表されておりますが、7月27日にJ A 営農支援課でもA地区～H地区を各1点ずつすくい取り調査したところ、平年（過去3年平均37匹）に比べ「多い（161匹）」頭数が確認されました。特に「草刈りしているが、出穂しているイネ科雑草がある」や「草刈りがされていない」畦畔で斑点米カメムシ類のすくい取り数が多い傾向にありました。捕獲の内訳は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」が全体の90.7%、「アカスジカスミカメ」が同9.3%となっております。

現在、早生品種については出穂～乳熟期を迎えており、今後は気温も上がるためさらに警戒が必要となりますので、つぎにより対策及び防除に努めてください。

また、白未熟粒やクサビ米は出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると発生が多くなるとされており、圃場の乾燥により助長されることから、この期間の天候を注視し高温日が続く場合は、間断灌水等による乾燥対策に努めてください。

斑点米カメムシ類、ウンカ類対策

- ① 圃場内にヒエ、ホタルイが残草している場合は早急に抜き取る。
- ② **出穂期10日後頃**に1回目の薬剤（エクシード、キラップ等）を散布。
「たつこもち」「ちほみのり」散布適期：8月6日頃
「あきたこまちR」散布適期：8月11日頃
「きぬのはだ」「ときめきもち」等晩生品種：8月15日頃が目安
- ③ 上記薬剤散布後、速やかに草刈り（薬効があるうちに圃場内へ追込む）。
- ④ 上記薬剤散布から2週間を目途に2回目の薬剤（エクシード、キラップ等）を散布。

〈 防除薬剤 〉

- ・エクシード…[粉剤DL 1袋3kg] 3kg/10a、
[フロアブル 500ml] 2,000倍で60L/10a
[フロアブル] 16倍で800ml/10a(無人ヘリ)
- ・キラップ …[粉剤DL 1袋3kg] 3kg/10a、
[フロアブル 500ml] 2,000倍で60L/10a
[フロアブル] 16倍で800ml/10a(無人ヘリ)

※JA資材課は8/13～8/15まで休業日とさせていただきます。

皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。水稻以外の技術情報は、パスワードの入力が必要です。